

福岡市水道水源かん養事業基金 第24回運営委員会議事録

- 1 開催日時 平成29年6月26日(月) 10時00分から11時45分
- 2 開催場所 水道局本館4階 局議室
- 3 委員数 8名
- 4 出席者 8名
- 5 議事
  - I 平成28年度事業実績について
  - II 平成29年度事業について

○基金概要について 事務局説明

○議事 I 平成28年度事業実績について 事務局説明

○議事 II 平成29年度事業について 事務局説明

【質問・意見】

委員： 平成28年度予算総額はいくらか。

事務局： 平成28年度予算は63,327千円である。

委員： 市内水源かん養林整備事業については、何年間の計画か。

事務局： 60年間の計画である。平成15年に立てた『福岡市水道水源かん養林整備計画』に基づいて、平成16年から整備を行っている。

委員： 水源かん養林の整備について、広葉樹を植樹する際、「木の苗は県内で自生しているものを使用する」と決めるか、「どこで生産されたものなのかを把握」しておいた方がいい。地元から問い合わせがあることがある。

日本では、植林する苗は広葉樹が良いと言われているが、必ずしも広葉樹が良いとは限らない。状況を考慮して植える苗を選定していただきたい。

また、50歳以上の高齢林が問題視されているが、高齢化よりも少子化の方が問題。今は、若い人工林が少ない。このままだと50年後、人工林がなくなり、伐採できる木がなくなる。

事務局： いただいた意見を参考に、水源かん養林整備事業についても一度整理したいと思う。

委員： 水源かん養林整備について、水源地域の活性化のためには、傾斜のゆるい耕作放棄地には杉などの薬用樹を植えたり、養蜂ができるよう花をつける木を植えるなど、収入ができるような森づくりも必要ではないか。

事務局： 実現可能か調査したい。基金の残高は残り3億円余りだが、こういった事業を続けていくには原資が必要。間伐材を利用したいが、林業に対しての逆風が強く、多くは利用できない。現在、国や県の補助金を最大限活用し、事業を行っている状況。

委員： 福岡県は自己間引きという方法もとっている。森林を放置すると木々が大きくなるにつれて殺し合う（自己間引き）状態になるが、そこそこ良い木ができていようだ。危険な個所は間伐して管理する必要があるが、その他の箇所は放っておくことも可能。これだけ林業従事者が減り、経済も傾いている状況では、全てを管理

することはできない。GISを活用し、整備できるところとできないところを整理してはどうか。

委員： 森林ボランティアについて、なかなか登録者が増えないということだったが、森林ボランティアに参加するとかなりきつい作業をさせられそうなイメージがある。若い人に人気の森林セラピーなど新しい切り口を取り入れてはどうか。

事務局： ボランティアの会員は世代別にみると、70歳以上の方が86名中70名。いただいた意見を基に、新しい切り口からの広報について考えていきたい。

委員： 平成29年度の活動助成金については、募集再開しているのか。予算の状況についても教えてほしい。

事務局： 予算は90万円のうち、70万円弱の執行が決定済み。あと20万円ほど予算があるため、募集を再開し、HP等に募集記事を掲載している。

委員： 年度末にある子ども会のお別れ会等で活用できればと思うが、いつまでに活動実施したらいいか。期限はあるか。

事務局： 申請受付後、審査を行い、適正な執行ができると実施日までに判断できれば、3月31日実施も可能。

○その他

【質問・意見】

特になし